

第 9 章・補論 1：開放経済における財政政策の効果^{*1}

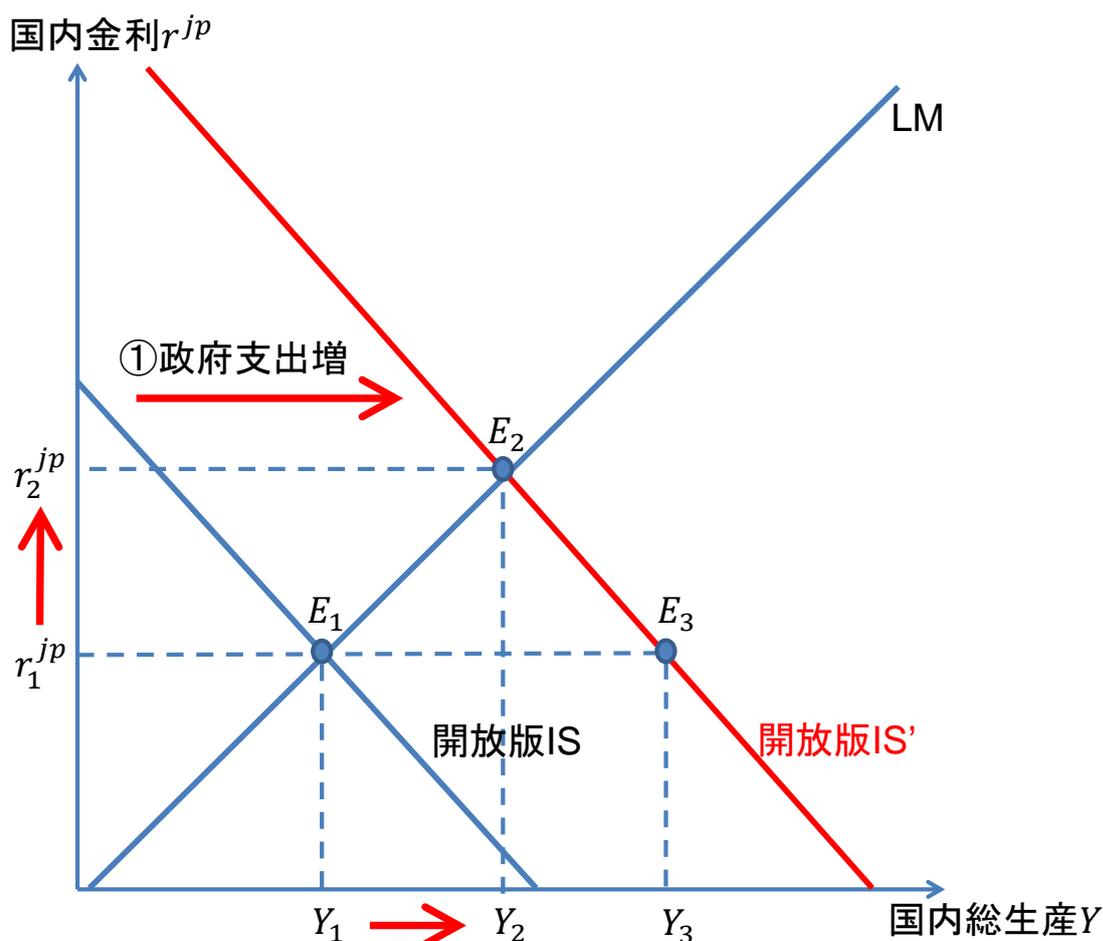
本文 199 ページで、財政政策の効果は閉鎖経済の時と同じであり、今回のモデルでは財政政策は外国為替市場には影響しないと述べました。しかし、本文 133 ページからの発展的課題である IS-LM モデルを考えれば、財政政策がどのように外国為替市場に影響するか考えることができます。まずは 133 ページ以降を復習し、LM 曲線とはどういうものかを再確認してください。

復習が終わったら財政政策が外国為替市場にどう影響するかを考察しましょう。ここでは、開放経済における IS 曲線を導出してみます。財の総需要は、 $Y^d = C + I + G + NX$ により構成されています。消費 $C = \bar{C} + cY$ 、政府支出 G は一定だとしましょう。日本の金利 r^{jp} が上昇すると 198 ページのチャート図にあるように、投資 I は減少し、また為替レート e の円高ドル安に伴って、純輸出 NX も下落します。よって、投資も純輸出も金利の減少関数であり、 $I = I(r^{jp})$ および $NX = NX(r^{jp})$ と表すことができます。以上から開放経済のときの均衡国内総生産の公式は、

$$Y = \frac{\bar{C} + G + I(r^{jp}) + NX(r^{jp})}{1 - c}$$

となります。この式は、133 ページのときと同じく、金利 r^{jp} が下がると、均衡国内総生産 Y が増加することを意味します。そこで、金利 r^{jp} を縦軸に、均衡国内総生産 Y を横軸にすると、開放経済版 IS 曲線として図のように右下がりの曲線が描けるのです。

^{*1} ©2015, Ryoji Hiraguchi, Masaru Inaba. Printed in Japan



このときの財政政策の効果は、136 ページの図 6.16 と同様に開放経済版 IS 曲線が右にシフトすることになります。その結果として均衡国内総生産 Y が上昇し、金利 r^{jp} が上昇し、 E_2 の点で決まります。国内金利 r^{jp} の上昇は、為替レート e の下落（円高ドル安）をもたらすというように外国為替市場に影響を与えるのです

国内金利 r^{jp} の上昇は、投資や純輸出の下落をもたらし、均衡国内総生産 Y を下げるのでは？という疑問が生じるでしょう。もし金利が上昇せず r_1^{jp} のままだったとしましょう。このとき均衡国内総生産 Y は図の E_3 まで大きくなります。しかし、金利 r^{jp} の上昇により、 I と NX が減少することによって、 E_2 の点に決まるのです。財政政策の効果としては均衡国内総生産 Y にプラスの効果があります。